

目から鱗！楽々時系列 7 第三者割当有償増資①

【例題】基本例題①の内容に基づいています。

P社は平成X1年12月31日にS社の発行済議決権付株式総数の80%を420,000円で取得した。
連結財務諸表作成上の留意事項

- 平成X1年12月31日(支配獲得日)における投資と資本の相殺消去により発生したのれんは、支配獲得日の翌年度から10年間にわたり每期均等償却を行う。
- 平成X3年12月31日にP社はS社が発行した新株250株@600円を全て引き受けた結果、S社に対する持分比率は84%となった。なお、S社は払込金額全額を資本金として処理している。
- 資料として与えられている事項以外は考慮しないこと。

平成X1年度S社個別貸借対照表

S社貸借対照表				S社貸借対照表			
平成X1年12月31日				平成X1年12月31日			
(単位:円)				(単位:円)			
諸	資	産	900,000	諸	負	債	500,000
				資	本	金	300,000
				利	益	剰	余
				金			100,000
			900,000				900,000

平成X2年度S社個別貸借対照表

S社貸借対照表				S社貸借対照表			
平成X2年12月31日				平成X2年12月31日			
(単位:円)				(単位:円)			
諸	資	産	950,000	諸	負	債	500,000
				資	本	金	300,000
				利	益	剰	余
				金			150,000
			950,000				950,000

平成X3年度S社個別貸借対照表

S社貸借対照表				S社貸借対照表			
平成X3年12月31日				平成X3年12月31日			
(単位:円)				(単位:円)			
諸	資	産	1,150,000	諸	負	債	500,000
				資	本	金	450,000
				利	益	剰	余
				金			200,000
			1,150,000				1,150,000

【時系列表】（単位：円）

検算：当期純利益 + 30,000 = 40,000 - 10,000 = 60,000 - 30,000（p. 5 も同様）

	X1. 12/31	連結第1年度	X2. 12/31	連結第2年度	X3. 12/31
資本金	300,000		300,000	+ <u>150,000</u>	450,000
利益剰余金	<u>100,000</u>		<u>150,000</u>	+ <u>50,000</u>	<u>200,000</u>
合計	<u>400,000</u>		<u>450,000</u>		<u>650,000</u>
非・持分比率			20%	20%	16%
非支配株主持分			90,000	+ 10,000	104,000
親・持分比率	80%		80%	80%	84%
親会社帰属 のれん	320,000		360,000	+ 40,000	546,000
差額	<u>100,000</u>	▲10,000	<u>90,000</u>	▲ <u>10,000</u>	<u>80,000</u>
親会社持分	<u>420,000</u>		<u>450,000</u>		<u>626,000</u>
子会社株式	420,000		420,000		570,000
資本剰余金					▲ 4,000
利益剰余金			<u>30,000</u>	+ <u>30,000</u>	<u>60,000</u>

【第三者割当有償増資の仕訳】

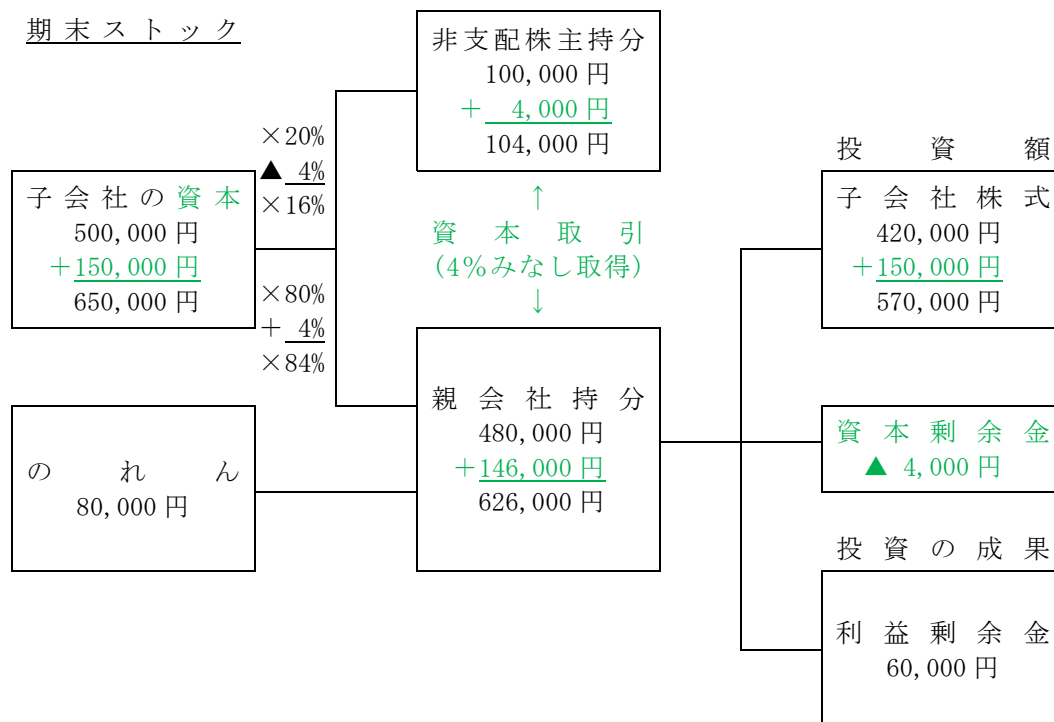
（単位：円）

資本金当期変動額 新株の発行	150,000	子会社株式	150,000
資本剰余金当期変動額 非支配株主との取引に係る親会社の持分変動	4,000	非支配株主持分当期変動額	※ 4,000

$$\text{※ } 4,000 = 650,000 \times 16\% - \frac{(90,000 + 10,000)}{\text{有償増資前非支配株主持分フロー}} = 650,000 \times 16\% - \frac{(300,000 + 200,000)}{\text{有償増資前非支配株主持分ストック}} \times 20\%$$

【枝分かれ図】最初にこの図でもって第三者割当有償増資の全体像を掴んで下さい。

◆ X3. 12/31（連結第2年度末：第三者割当有償増資前 → 第三者割当有償増資後）



【楽しく学ぼう！連結会計3・損益計算書】

平成 X3 年度 S 社個別損益計算書

S 社 損 益 計 算 書

自平成 X3 年 1 月 1 日

至平成 X3 年 12 月 31 日

(単位：円)

諸 費 用	150,000	諸 収 益	200,000
当 期 純 利 益	50,000		
	200,000		200,000

【仕訳一巡（連結第2年度期首～連結第3年度期首）】（青枠が親会社持分です）

ストック・アプローチでは個別同士、連結同士は相殺し、個別と連結の相殺は行いません。

◆ 連結第2年度開始仕訳（ストック・アプローチ）（単位：円）

資本金当期首残高	300,000	子会社株式	420,000
利益剰余金当期首残高	150,000	利益剰余金当期首残高	30,000
のれん	90,000	非支配株主持分当期首残高	90,000

◆ 当期純利益の消去・振替（本来の連結手続きではありません）

当 期 純 利 益	50,000	当 期 純 利 益	50,000
個 別		連 結	

◆ 当期純利益の非支配株主への按分：50,000×20%=10,000

非支配株主に帰属する当期純利益	10,000	非支配株主持分当期変動額	10,000
-----------------	--------	--------------	--------

◆ のれんの償却

のれん償却額	10,000	のれん	10,000
--------	--------	-----	--------

◆ 第三者割当有償増資

資本金当期変動額 新株の発行	150,000	子会社株式	150,000
資本剰余金当期変動額 非支配株主との取引に係る親会社の持分変動	4,000	非支配株主持分当期変動額	4,000

◆ 連結第3年度開始仕訳（ストック・アプローチ=フロー・アプローチ）

資本金当期首残高	450,000	子会社株式	570,000
資本剰余金当期首残高	4,000	利益剰余金当期首残高	60,000
利益剰余金当期首残高	200,000	非支配株主持分当期首残高	104,000
のれん	80,000		

※ 試験で開始仕訳が問われた場合、(借方)と(貸方)の利益剰余金当期首残高を相殺して下さい。

【財務諸表一巡】下のS社財務諸表をP社財務諸表と合算すれば連結財務諸表は完成します。

なお、子会社株式は合算により相殺消去されます。

平成 X2 年度修正後 S 社貸借対照表

S 社 貸 借 対 照 表				平成 X2 年 12 月 31 日				(単位:円)
諸	資	産	950,000	諸	負	債	500,000	
の	れ	ん	90,000	子	会	社	株	式
				利	益	剰	余	金
				非	支	配	株	主
				持	分			
			1,040,000				90,000	
							1,040,000	

平成 X3 年度修正後 S 社損益計算書

S 社 損 益 計 算 書				自平成 X3 年 1 月 1 日				至平成 X3 年 12 月 31 日				(単位:円)	
諸	費	用	150,000	諸	収	益	200,000						
の	れ	ん	償										
			却										
			額										
			10,000										
			非										
			支										
			配										
			株										
			主										
			に										
			帰										
			属										
			す										
			る										
			当										
			期										
			純										
			利										
			益										
			10,000										
			親										
			会										
			社										
			株										
			主										
			に										
			帰										
			属										
			す										
			る										
			当										
			期										
			純										
			利										
			益										
			30,000										
			200,000										

平成 X3 年度修正後 S 社貸借対照表

S 社 貸 借 対 照 表				平成 X3 年 12 月 31 日				(単位:円)
諸	資	産	1,150,000	諸	負	債	500,000	
の	れ	ん	80,000	子	会	社	株	式
				資	本	剰	余	金
				利	益	剰	余	金
				非	支	配	株	主
				持	分			
			1,230,000				104,000	
							1,230,000	

【追加】先の例題で、連結財務諸表作成上の留意事項2.が下記の内容の場合を検討してみます。

2. 平成X3年12月31日にS社発行の新株250株@600円をP社は全く引き受けなかった為、S社に対する持分比率は64%となった。なお、S社は払込金額全額を資本金として処理している。

【時系列表】(単位：円)

	X1.12/31	連結第1年度	X2.12/31	連結第2年度	X3.12/31
資本金	300,000		300,000	+150,000	450,000
利益剰余金	100,000		150,000	+50,000	200,000
合計	400,000		450,000		650,000
非・持分比率			20%	20%	36%
非支配株主持分			90,000	+10,000	234,000
親・持分比率	80%		80%	80%	64%
親会社帰属のれん	320,000		360,000	+40,000	416,000
のれん	差額100,000	▲10,000	90,000	▲10,000	80,000
親会社持分	420,000		450,000		496,000
子会社株式	420,000		420,000		420,000
資本剰余金					16,000
利益剰余金			30,000	+30,000	60,000

【第三者割当有償増資の仕訳】

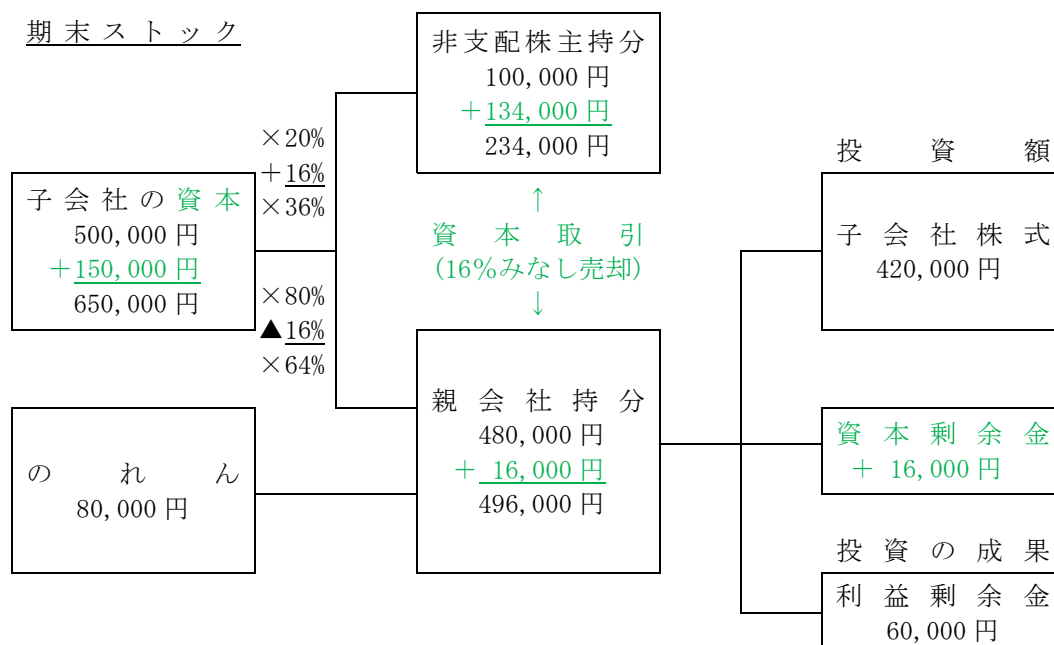
(単位：円)

資本金当期変動額 新株の発行	150,000	非支配株主持分当期変動額	※134,000
		資本剰余金当期変動額 非支配株主との取引に係る親会社の持分変動	16,000

$$\text{※ } 134,000 = 650,000 \times 36\% - \frac{(90,000 + 10,000)}{\text{有償増資前非支配株主持分フロー}} = 650,000 \times 36\% - \frac{(300,000 + 200,000)}{\text{有償増資前非支配株主持分ストック}} \times 20\%$$

【枝分かれ図】最初にこの図でもって第三者割当有償増資の全体像を掴んで下さい。

- ◆ X3.12/31 (連結第2年度末：第三者割当有償増資前 → 第三者割当有償増資後)



【楽しく学ぼう！連結会計3・損益計算書】

平成 X3 年度 S 社個別損益計算書

S 社 損 益 計 算 書

自平成 X3 年 1 月 1 日

至平成 X3 年 12 月 31 日

(単位：円)

諸 費 用	150,000	諸 収 益	200,000
当 期 純 利 益	50,000		
	200,000		200,000

【仕訳一巡（連結第2年度期首～連結第3年度期首）】（青枠が親会社持分です）

ストック・アプローチでは個別同士、連結同士は相殺し、個別と連結の相殺は行いません。

◆ 連結第2年度開始仕訳（ストック・アプローチ）（単位：円）

資本金当期首残高	300,000	子会社株式	420,000
利益剰余金当期首残高	150,000	利益剰余金当期首残高	30,000
のれん	90,000	非支配株主持分当期首残高	90,000

◆ 当期純利益の消去・振替（本来の連結手続きではありません）

当 期 純 利 益 個 別	50,000	当 期 純 利 益 連 結	50,000
------------------	--------	------------------	--------

◆ 当期純利益の非支配株主への按分：50,000×20%=10,000

非支配株主に帰属する当期純利益	10,000	非支配株主持分当期変動額	10,000
-----------------	--------	--------------	--------

◆ のれんの償却

のれん償却額	10,000	のれん	10,000
--------	--------	-----	--------

◆ 第三者割当有償増資

資本金当期変動額 新株の発行	150,000	非支配株主持分当期変動額	134,000
		資本剰余金当期変動額 非支配株主との取引に係る親会社の持分変動	16,000

◆ 連結第3年度開始仕訳（ストック・アプローチ=フロー・アプローチ）

資本金当期首残高	450,000	子会社株式	420,000
利益剰余金当期首残高	200,000	資本剰余金当期首残高	16,000
のれん	80,000	利益剰余金当期首残高	60,000
		非支配株主持分当期首残高	234,000

※ 試験で開始仕訳が問われた場合、(借方)と(貸方)の利益剰余金当期首残高を相殺して下さい。

【財務諸表一巡】下の S 社財務諸表を P 社財務諸表と合算すれば連結財務諸表は完成します。
 なお、子会社株式は合算により相殺消去されます。

平成 X2 年度修正後 S 社貸借対照表

S 社 貸借対照表							
平成 X2 年 12 月 31 日							
(単位:円)							
諸	資	産	950,000	諸	負	債	500,000
の	れ	ん	90,000	子	会	社	株
/			1,040,000	利	益	剰	余
				金	30,000		
/			1,040,000	非	支	配	株
				主	持	分	90,000
/			1,040,000	/			1,040,000
							1,040,000

平成 X3 年度修正後 S 社損益計算書

S 社 損益計算書							
自平成 X3 年 1 月 1 日							
至平成 X3 年 12 月 31 日							
(単位:円)							
諸	費	用	150,000	諸	収	益	200,000
の	れ	ん	償	/			200,000
却	額	10,000					
非支配株主に帰属する当期純利益			10,000	/			200,000
親会社株主に帰属する当期純利益			30,000				
/			200,000	/			200,000
/			200,000	/			200,000

平成 X3 年度修正後 S 社貸借対照表

S 社 貸借対照表							
平成 X3 年 12 月 31 日							
(単位:円)							
諸	資	産	1,150,000	諸	負	債	500,000
の	れ	ん	80,000	子	会	社	株
/			1,230,000	資	本	剰	余
				金	16,000		
/			1,230,000	利	益	剰	余
				金	60,000		
/			1,230,000	非	支	配	株
				主	持	分	234,000
/			1,230,000	/			1,230,000
							1,230,000

それでは、今回の内容はここまでです。See You Again!

※ 下記練習用フォーマットは二つのケース両方に対応しています。

【時系列表（ストック・アプローチ）】（単位：円）

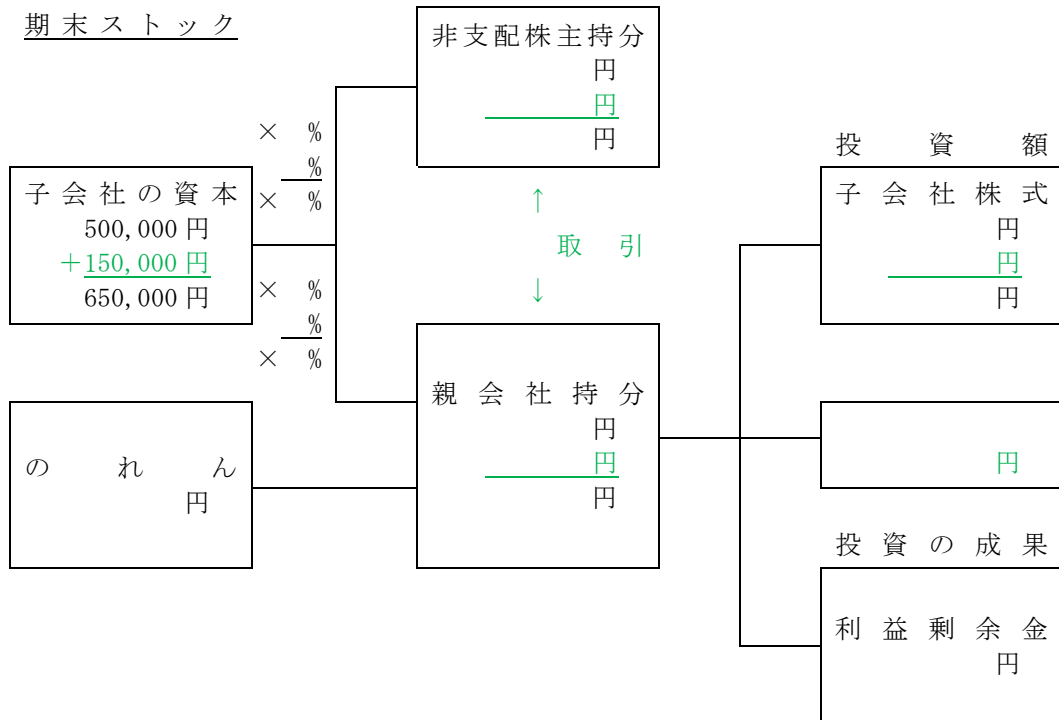
親会社株主に帰属する当期純利益の検算：

	<u>X1. 12/31</u>	連結第1年度	<u>X2. 12/31</u>	連結第2年度	<u>X3. 12/31</u>
資本金	300,000		300,000	+ <u>150,000</u>	450,000
利益剰余金	<u>100,000</u>		<u>150,000</u>	+ <u>50,000</u>	<u>200,000</u>
合計	<u>400,000</u>		<u>450,000</u>		<u>650,000</u>
非・持分比率					
非支配株主持分					
親・持分比率					
親会社帰属のれん					
親会社持分子会社株式					

利益剰余金

【枝分かれ図】（参考）

◆ X3. 12/31（連結第2年度末：第三者割当有償増資前 → 第三者割当有償増資後）



【楽しく学ぼう！連結会計3・損益計算書】

平成 X3 年度 S 社個別損益計算書					
S 社 損 益 計 算 書					
自平成 X3 年 1 月 1 日					
至平成 X3 年 12 月 31 日					
(単位:円)					
諸	費	用	150,000	諸	収 益
当 期	純 利 益		50,000		
			200,000	200,000	

【仕訳一巡（連結第2年度期首～連結第3年度期首）】

ストック・アプローチでは個別同士、連結同士は相殺し、個別と連結の相殺は行いません。

◆ 連結第2年度開始仕訳（ストック・アプローチ） (単位:円)

◆ 当期純利益の消去・振替（本来の連結手続きではありません）

◆ 当期純利益の非支配株主への按分

◆ のれんの償却

◆ 第三者割当有償増資

◆ 連結第3年度開始仕訳（ストック・アプローチ＝フロー・アプローチ）

※ 試験で開始仕訳が問われた場合、(借方)と(貸方)の利益剰余金当期首残高を相殺して下さい。

【財務諸表一巡】下の S 社財務諸表を P 社財務諸表と合算すれば連結財務諸表は完成します。

平成 X2 年度修正後 S 社貸借対照表

S 社 貸 借 対 照 表

平成 X2 年 12 月 31 日

(単位:円)

諸 資 産	950,000	諸 負 債	500,000

平成 X3 年度修正後 S 社損益計算書

S 社 損 益 計 算 書

自平成 X3 年 1 月 1 日

至平成 X3 年 12 月 31 日

(単位:円)

諸 費 用	150,000	諸 収 益	200,000

平成 X3 年度修正後 S 社貸借対照表

S 社 貸 借 対 照 表

平成 X3 年 12 月 31 日

(単位:円)

諸 資 産	1,150,000	諸 負 債	500,000